第１回　天竜川ダム再編事業　佐久間ダム環境検討委員会

議事要旨

日　時：令和８年１０月２８日（水曜日）１４：３０～１６：１０
場　所：レイアップ御幸町ビル　ＣＳＡ貸会議室
　　７階　７－Ｄ会議室

1.　開会

2.　開会挨拶

開会挨拶（中部地方整備局　天竜川ダム再編工事事務所長）

3.　議事

（１）設立趣意書（案）について【資料－２】

・意見なし。

● 設立趣意書（案）について審議を行い、了承された。

（２）委員会規約（案）について【資料－３】

・意見なし。

● 委員会規約（案）について審議を行い、了承された

● 委員長に板井委員を選出した。

（３）事業計画の変更に伴う環境影響予測・評価の更新について【資料－４、資料－５】

・下流河川の生態系予測結果については、漁業協同組合の関心が高いと予想される礫間の砂堆積や、瀬淵形状の変化等が及ぼす影響等について評価する必要がある。天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】の審議内容を抜粋して示されているが、どのような検討がなされたのか詳しく説明してもらいたい。

⇒次回委員会時に説明する。漁業協同組合には、別途行っている恒久的な堆砂対策運用検討委員会に委員とし参画していただいており、生態系の予測結果等ご説明し、ご審議いただくこととしている。

・ダム湖で浚渫する際に、濁水処理施設に運搬するのであれば、運搬ルートや施設の能力についても次回委員会において説明してもらいたい。

⇒浚渫土砂については濁水処理施設で濁り対策をするのではなく、ダム貯水池に濁りが広がらないよう対策をしながら浚渫を行う。

・ＳＳ濃度 740mg/L が長時間継続した場合のアユ仔魚に与える影響を教えてもらいたい。

⇒あくまで実験値であるが、ＳＳ濃度 740mg/L が 48 時間継続すると斃死することが報告されている。

・濁水の影響については、実験結果だけではなく、濁水の発生箇所と仔魚の分布域との関係、濁水の発生時期と産卵時期のずれを踏まえて検討する必要がある。近年はアユの産卵時期が遅れており、11 月以降になりつつあるので、濁りが発生するような洪水が起きにくいかもしれない。総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】で検討されている内容かもしれないため、調査して次回説明してもらいたい。

・ネバタゴガエルの環境保全措置として、卵塊の移植を行うこととしているが、元の場所に戻すのであれば問題ない。一方、別の箇所に移植する場合は、移植先の環境収容力を考慮する必要があるため実施方法について検討されたい。
⇒ご意見を踏まえて、改めて相談させていただく。

・評価にあたっては、最新のレッドリストを用いるべきである。重要種の区分が変わると再検討が必要になる可能性がある。
⇒令和 4 年度の委員会にて審議いただいた時点では、2020 年版のレッドリストを使用している。影響予測評価の更新にあたっては最新のレッドリストを用いる。

・植物の移植については、移植先で生育する環境が存在するかが重要である。移植する際は相談してほしい。
⇒工事実施前に移植先について相談する。

● 事業計画の変更に伴う予測・評価の見直しに関する今後の方針について審議を行い、了承された。

（4）今後のスケジュール【資料－6】

・意見なし

● 今後のスケジュールについて審議を行い、了承された。

（5）その他

● 特になし

4. 閉会

閉会挨拶（天竜川ダム再編工事事務所長）

以 上